

みんなで防ごう！交通労働災害

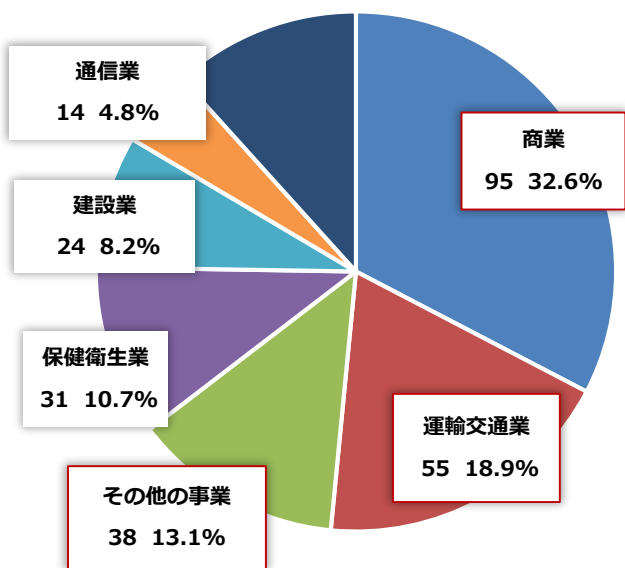
福岡県における令和5年の交通労働災害による死亡者数は、前年より3人減少の3人となりましたが、令和5年の交通労働災害による死傷者数は、前年より40人増加の291人となり、大変憂慮される事態に変わりありません。

福岡県における交通労働災害の発生状況

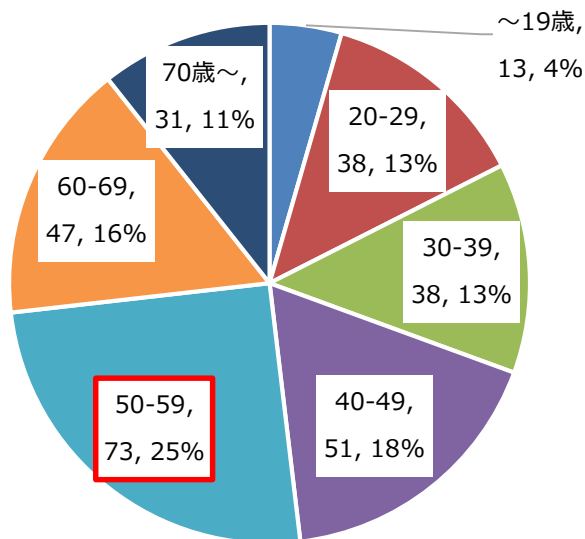
福岡県内では令和5年に291件の交通労働災害（休業4日以上）が発生しました。業種別で見ると、商業、運輸交通業、その他の事業の順となっております。

また、年齢別での交通労働災害はどの世代でも多く、50歳代が多く発生しています。

業種別



年齢別

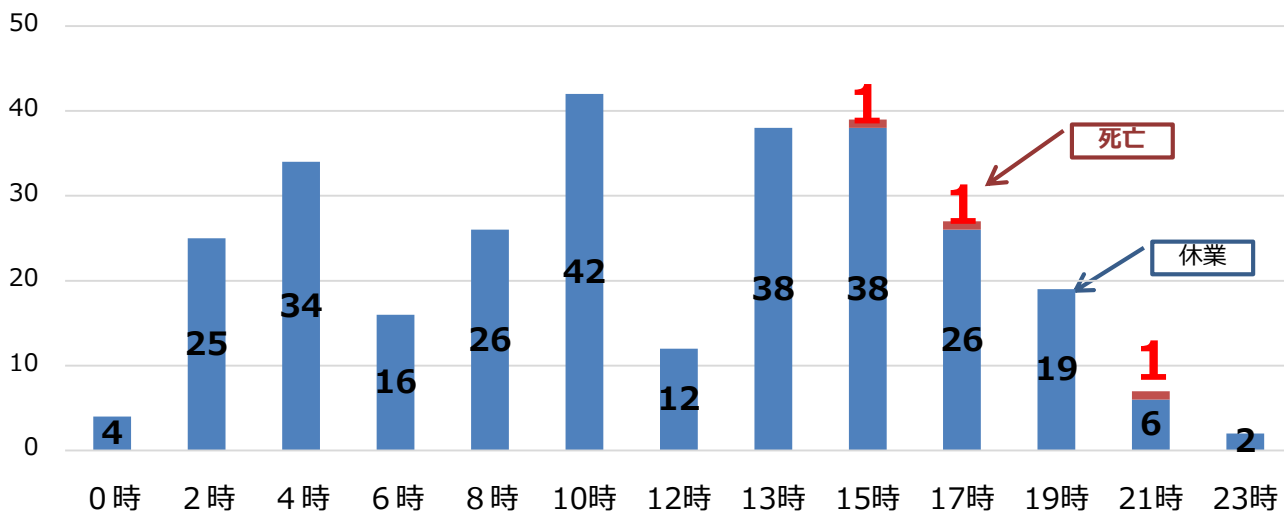


出典：厚生労働省 労働者死傷病報告（令和5年）

交通労働災害発生時間帯

福岡県内の交通労働災害は、12時前後の時間帯、未明から明け方の時間帯で多く発生しています。

令和5年における死亡災害は、建設業（1件）、道路貨物運送業（1件）、警備業（1件）において3件発生しています。特に夕方と夜間の時間帯に発生しており、他車両から見やすいよう反射ベストを着用するなど、状況に応じた交通労働災害防止対策が必要です。



出典：厚生労働省 労働者死傷病報告（令和5年）

交通労働災害を防ぐために

交通労働災害の発生を未然に防止するためには、自動車・バイク・原動機付自転車の運転業務に労働者を従事させるすべての事業者及び労働者の皆様の「交通労働災害防止のためのガイドライン等」に基づく以下の内容の積極的な取り組みが必要です。

【交通労働災害防止対策】

チェック項目		<input checked="" type="checkbox"/>
①	交通労働災害防止に関する管理者を選任し、役割・責任・権限を定めましょう。	<input type="checkbox"/>
②	目標を設定し、目標を達成するため、労働時間の管理・教育を含む安全衛生計画を作成しましょう。	<input type="checkbox"/>
③	改善基準を守り、適正な計画によって運転者の十分な睡眠時間等に配慮した労働時間管理をしましょう	<input type="checkbox"/>
④	走行経路、走行時に注意を要する箇所の位置等について、走行計画を作成しましょう。	<input type="checkbox"/>
⑤	交通ヒヤリマップを作成し、活用しましょう。	<input type="checkbox"/>
⑥	雇い入れ教育（法定教育）、日常の教育、交通危険予知訓練（KYT）を実施しましょう。	<input type="checkbox"/>
⑦	信号順守と交差点での一時停止・安全確認を徹底しましょう。	<input type="checkbox"/>
⑧	点呼時に、労働者の疾病、疲労、睡眠不足、飲酒等の確認を行いましょう。	<input type="checkbox"/>
⑨	電話対応時は、必ず安全な場所に停車して対応しましょう。（スマホのながら運転禁止）	<input type="checkbox"/>
⑩	社用車等に自動ブレーキ、ペダル踏み間違い時加速抑制装置等の先進安全技術を搭載した車両を導入しましょう。	<input type="checkbox"/>
⑪	異常気象時には運転のリスクが高まることから、走行中止を含めた適正な指示をできるだけ早い時期に行いましょう。	<input type="checkbox"/>

※チェック項目について

《交通労働災害防止のためのガイドラインから抜粋》 ⇒



交通労働災害防止対策

○事業者や作業現場周辺の交通危険箇所（交通ヒヤリマップ）を把握しましょう

自動車運転者間で事故情報、道路事情等の情報を出し合い、その情報から交通ヒヤリマップを作成しましょう。作成したマップなどの情報を共有することで、運転者の危険感受性を高めましょう。

一人ひとりの貴重な体験をヒヤリ・ハット情報としてみんなで先取りのために活用すれば、安全対策は、もっと身近なものになり、安全運転に大きく貢献することになります。そのために地図を活用した手法が交通ヒヤリマップです。

○中高年齢自動車運転者への運転業務を配慮しましょう

中高年齢自動車運転者は、睡眠不足の傾向があるので、改善基準を守るだけでなく、長時間運転にならないように配慮しましょう。